

令和5年度

**淡路市社会福祉協議会
事業計画**

社会福祉法人 淡路市社会福祉協議会

令和 5 年度 淡路市社会福祉協議会 事業方針

◎「ポストコロナ」を意識した地域福祉活動の再構築

これまでの政府の発表によると、マスク着用の考え方の変更、感染症法上の類型が季節性インフルエンザと同等の 5 類に下げられる予定です。令和 2 年春から 3 年間にわたって続いたコロナ禍の感染対策等にも一定の自粛緩和や制限解除が見られるものと思います。

コロナ禍でも「何もとめない 何もやめない」を活動の基本としてきた本会としては、基本理念である「共生循環型地域社会づくり」を進めるため、「ポストコロナ」を意識した新たな地域福祉活動の在り方を再構築する気持ちで取り組んでまいります。また、コロナ禍で蓄積されたオンラインや ICT 化(通信情報技術)のノウハウは、少しずつ再開の兆しを見せている直接顔をあわせた活動を補完するものとして、引き続き地域福祉活動に活用してまいります。

◎生きづらさ、暮らしぶらさを感じる人を取り残さない役割や活躍の場の創出

コロナ禍の影響や社会情勢の変化により、「生活困窮」や「ひきこもり」の課題が顕在化してきています。多様な就労機会の創出や、居場所づくりを進めることはもとより、相互理解を促進するための啓発機会を充実します。

令和 5 年度より実施される、社協における生活困窮者支援体制強化事業(ほっとかへんネットワークワーカー配置事業)を通じ、特例貸付世帯への対応(相談支援・情報提供)や、生活困窮にまつわる様々な課題に対応できる体制を整えてまいります。また、社会福祉法人連絡協議会の設立に向け関係機関との調整を行います。

◎第四次地域福祉推進計画を意識した第三次地域福祉推進計画の推進と検証

令和 6 年度末に計画期間を終了する第三次地域福祉推進計画は、前半の 3 年間はコロナ禍の影響を受け、制限や自粛を余儀なくされる中で社協活動が続いてきました。令和 6 年度中に策定を行う第四次推進計画にむけ、令和 4 年度に実施できなかった中間見直しについて評価委員会を設置し行います。

◎包括的支援体制の構築を目指した行政や関係機関との協働と連携

令和 4 年度には、健康福祉部と協働で「誰もが安心して暮らすことのできる淡路市を目指すプロジェクト」を立ち上げ、生活困窮世帯等に対し家電製品等を貸与する仕組みを構築しました。また、孤立を防ぐ地域づくり人材養成研修(全 5 回)を合同で受講するなど、包括的支援体制や地域共生社会の実現に向けた理念の共有を行うことができました。これらのつながりを継続させるとともに、関係機関との連携や、住民の立場で参加していただける方への呼びかけなど、協働と連携の幅が広がる工夫を行います。

◎淡路市社協の 10 年～15 年先を見据えた組織検討と職員育成

市町合併から 18 年が経過し、この間約 17%の人口が減少(5.15 万⇒4.25 万)しました。地域福祉を推進し続ける上で、組織として大切にすべきことを明確にし、中長期的な視点に立った組織的な検討を行います。また、職員育成については、先進的な実践の視察や、個々の主体性を重んじ積極的な研修機会を提供します。

【第1章】

【私たちのありたい地域】
「縁」があふれるまち

《大切にしたいこと1》
自分たちのまわりにある
活動の価値を知り、高める

【目指したいこと1】
地域の宝物(活動)を
集められるまち

【目指したいこと2】
地域の宝物(活動)を
みがいていけるまち

《大切にしたいこと2》
まだ見ぬ出会いへ
ちょっと踏み出せる

【目指したいこと3】
興味・関心で新しい
出会いがつかれるまち

【目指したいこと4】
新しい魅力や活動が
生まれるまち

《大切にしたいこと3》
知ってもらう・伝えてもらう

【目指したいこと5】
人やまちが元気になるた
めの分かち合えるまち

【目指したいこと6】
暮らしを豊かにする情報
が集まり、幅広く伝え合
うまち

《大切にしたいこと4》
力を合わせて困りごとを
解決する

【目指したいこと7】
相談したりされたりできる
「おたがいさん」のまち

【目指したいこと8】
いろんな人と力を合わ
せて不安を減らせるまち

第1章 ワークショップから見えてきた「私たちのありたい地域」(地域の活動目標)



【第2章】

【理念】 共生循環型地域社会づくり

＜風車型地域福祉活動＞

共生型地域社会づくり(社協の理念と活動目標)

重点活動①
**今あるものを活かした
 活動づくりと組織化支援**

基本活動1
 今あるものの価値を伝える
 活動をすすめよう

基本活動2
 今あるものを活かした
 取り組みをすすめよう



重点活動②
**新しい活動づくりと
 多様な主体による協働の推進**

基本活動3
 新しい活動づくり、場づくりを
 すすめよう

基本活動4
 新しいカタチの協働を
 すすめよう

最重点活動
**「当事者の主体化」と
 「双方向を意識した情報発信」**

最重点活動①
 地域の中で分かち合いの場づくり
 をすすめよう

最重点活動②
 出会いが生まれる情報を集め、
 伝える取り組みをすすめよう

社協の
 組織強化
 (基盤強化)

重点活動③
**重層的なネットワークづくりと
 相互扶助の推進**

基本活動5
 相談したり相談されたりできる
 まちづくりをすすめよう

基本活動6
 包括的な相談体制づくり
 をすすめよう

令和5年度 風車型地域福祉活動に基づく事業計画

1. 風車型地域福祉活動の「はなしあう」（法人の組織整備と運営）

(1) 理事会、評議員会、各地域支えあいセンター運営委員会の開催

社協の収支状況等、経営の状況にさらに目を向け、地域福祉財源の確保に向けた事業展開を行います。

事業項目	事業内容	頻度(時期等)
理事会、評議員会、各地域支えあいセンター運営委員会の開催	理事会の開催	毎月
	評議員会の開催	6月、3月
	監事会の開催	3回/年
	理事・監事合同研修会(経営研修等)	1回/年
	地域支えあいセンター運営委員会の開催	毎月

(2) 社協会費、善意の預託、共同募金の啓発

地域福祉財源に関わる社協会費・善意の預託・共同募金それぞれの目的・使途を分かりやすく周知し、さらなる理解と協力をすすめます。

事業項目	事業内容	頻度(時期等)
社協会費、善意の預託、共同募金の啓発	社協会員の拡充	6月
	善意の預託の募集	6月
	善意銀行運営の労働・技能口座の再活性化(企業等)	年間を通じて
	赤い羽根共同募金運動推進	10月
	街頭募金の実施	10月
	募金百貨店(ぐるぐるプロジェクト)の推進	年間を通じて
	社協会費・善意の預託・共同募金事務統一化についての検討	年間を通じて

(3) 職員の確保と育成

福祉業界における慢性的な人材不足の中、地域福祉推進のために必要な人材の確保および今ある貴重な人材の育成に向けた活動をすすめます。

事業項目	事業内容	頻度(時期等)
職員の確保と育成	中長期的な職員採用計画の模索	年間を通じて
	多様な働き方に向けた検討	年間を通じて
	積極的な職場外研修への参加	年間を通じて
	役員・職員合同研修会の実施(地域活動事例集の作成)	年間を通じて
	(会議を活用した)職場内研修の実施	年間を通じて
	各種資格取得への支援	年間を通じて
	ICT(情報通信技術)等のデジタル活用研修	年間を通じて
	スーパービジョン(援助者が上司などから教育、助言を受ける過程)の促進	年間を通じて
	経営・財務に関する学習	年間を通じて

2. 風車型地域福祉活動の「すすめる」

(1) 小地域福祉活動の推進

新型コロナウイルスの影響により地域での組織的な会議や活動が大きな制限を受け、話し合い等の活動機会が減少してきました。ポストコロナを意識した活動方法の開発・回復の方法や仕組みについて、住民の皆さんと話し合いながらすすめていきます。

事業項目	事業内容	頻度(時期等)
小地域福祉活動の 推進	小地域福祉活動のすすめ方についての再検討	年間を通じて
	小地域福祉活動組織(まち協・地区社協等)への支援	年間を通じて
	地域活動者(ボランティア等)への支援	年間を通じて
	地域座談会(話し合いの場)の推進	年間を通じて
	民生委員児童委員協議会との連携	年間を通じて
	福祉委員活動の推進(東浦地域)	年間を通じて
	小地域ごとの組織化に向けた働きかけ	年間を通じて
	小地域ごとの福祉計画づくりへの働きかけ	年間を通じて
	地域や見守り活動についての話し合い・再開発 (まち協、つながりねっと、地区社協、べっちゃんい、あんしんネット)	年間を通じて
	プランターファーム等による相互見守りの推進	年間を通じて

(2) 集まりの場の継続支援と活躍のための支援

淡路市内における「ふれあいいきいきサロン」や「いきいき100歳体操」の普及は、様々な活動へつながるきっかけになっています。引き続き1層・2層の生活支援コーディネーター間で市内外の情報共有と事例研究を行い、それぞれの地域住民と一緒に「参加と活躍」を意識した連携や協働を促進し、自分らしく暮らし続けるために支えあう体制づくりをすすめます。

事業項目	事業内容	頻度(時期等)
集まりの場の 継続支援と 活躍のための支援	生活支援体制整備事業の推進	年間を通じて
	今ある活動、集まりの場の継続分析	年間を通じて
	コロナ禍において生まれた活動、集まりの場の調査研究	年間を通じて
	「ふれあいサロン」の活動支援	年間を通じて
	「コミュニティカフェ」の活動支援	年間を通じて
	「いきいき100歳体操」活動者との協働事業の検討	年間を通じて
	他地域との交流、情報交換の推進	年間を通じて
	地域活動拠点の継続支援と新たな活動拠点づくりへの支援	年間を通じて
	既存施設(各センター等)の多機能拠点化	年間を通じて
	地域イベントや各種つどい等の活動支援	年間を通じて
	スマホキャラバンメイトの普及啓発	年間を通じて
	通所介護事業所、訪問介護事業所、在宅介護支援センター連絡会、介護支援専門員連絡会への参画	年間を通じて
	ボランティア連絡会・研修会の開催など活動者への支援	年間を通じて

(3) 思いを話せる場や分かち合いの場の推進

自分自身や家族のことなどで不安や悩みを抱えている人たちが、日頃から感じている思いや希望、悩みを話せる場や分かちあえる活動づくりをすすめながら、自分たちの意思で目的に向かえるような支援を行います。

事業項目	事業内容	頻度(時期等)
思いを話せる場や分かち合いの場の推進	思いを持つ人同士の出会い、つながり、つどい場づくり	年間を通じて
	既存のグループへの継続・活動支援	年間を通じて
	新たなグループづくり・組織化	年間を通じて
	自分らしく過ごせる居場所づくりの推進	年間を通じて
	認知症家族会の開催	毎月
	認知症カフェやつどい場に対する支援	毎月
	作業所、ケアホーム保護者連絡会の開催	毎月
	自立体験ステイ(宿泊体験)	随時
	自立支援協議会への参画	年間を通じて
	こみゆにてい・フットサル交流会の開催	4回

(4) 多様な媒体による積極的な情報発信

出会いや気づきを生み出す情報を日頃から意識して集め、広く伝えていく取り組みをすすめます。また、社協活動や福祉について言語化・視覚化し、わかりやすい情報発信に努めます。

事業項目	事業内容	頻度(時期等)
多様な媒体による積極的な情報発信	地域支えあいセンターだより「すまいる」の発行	毎月
	小地域ごとの住民参加による広報誌の発行支援	年間を通じて
	地域の宝物(活動・行事)発掘と発信	年間を通じて
	広報誌におけるモニター制、投稿制の検討・試行	年間を通じて
	地域指標(人口データ等)の活用・分析	随時
	淡路市社協パンフレットの制作・活用	年間を通じて
	淡路市社協ホームページ・SNSの更新	年間を通じて
	オンラインを活用した情報発信	年間を通じて

(5) 地域における福祉学習の推進

支え手・受け手の関係を超えた、お互いが学び合い、共に生きていくための福祉学習を地域の中においてすすめていきます。

事業項目	事業内容	頻度(時期等)
地域における福祉学習の推進	市内の学校に対する福祉学習の推進	1～3回
	地域住民向け福祉学習の推進	継続的に
	だれでも参加しやすい福祉学習の推進	1～3回
	市内他地域活動の相互視察の実施	1～3回
	福祉事業所との協働による相互理解・福祉学習の推進	1～3回
	福祉学習に関する研修会・連絡会の開催	1～3回
	小学校、中学校を通して体系的に学ぶ仕組みづくりの検討	年間を通じて
	オンラインの活用など新たな福祉学習の充実	年間を通じて
	福祉教育指定校による助成	年間を通じて

(6)参加と活躍、出会いと力合わせの場づくり

様々な人やグループが出会い、知恵を出し合いながら理想の地域像を描き、同じ方向を向いて力を合わせる
ことができるような働きかけを行っていきます。

事業項目	事業内容	頻度(時期等)
参加と活躍、 出会いと力合わせ の場づくり	各地域支えあいセンターによる「福祉まつり」の開催	10月～11月
	防災やひきこもり、男性の料理など共通のテーマや趣味に基づいた出 会いの場づくり	年間を通じて
	世代間・活動領域を越えた多世代協働事業の検討	年間を通じて
	NPOや企業等の他団体と協働事業の検討	年間を通じて
	小学校、公民館、子育て学習センター等の教育関係団体との協働	年間を通じて
	社会福祉法人連絡会(ほっとかへんネット)の設立に向けた取組み	年間を通じて

3. 風車型地域福祉活動の「ささえる」

(1) 暮らしを支える相談窓口の推進と生活困窮者支援の取り組み

地域住民の暮らしの中にある課題や生きづらさと向き合い、受け止めていく相談窓口づくりと、相談を入口にした参加の機会を広げ、誰もが役割・活躍を感じ、お互いに認め合える地域づくりをすすめていきます。

事業項目	事業内容	頻度(時期等)
暮らしを支える 相談窓口の推進と 生活困窮者支援の 取り組み	日常的な相談窓口の推進	年間を通じて
	日常生活自立支援事業における相談及び支援	年間を通じて
	成年後見制度利用促進法における中核機関との連携	年間を通じて
	生活困窮者自立支援事業における相談支援	年間を通じて
	住居確保給付金、一時生活支援事業の相談受付	年間を通じて
	生活福祉資金、小口資金貸付の運用	年間を通じて
	食糧支援・生活必要物品貸与の実施	年間を通じて
	企業などと連携した新たな食糧支援の研究・仕組みづくり	年間を通じて
	生活困窮者支援・ひきこもり支援に関する啓発活動	年間を通じて
	ひきこもりに関する相談対応、居場所の支援	年間を通じて
	社会参加、中間的就労、福祉的就労に向けた研究・模索	年間を通じて
	無料職業紹介所開設に向けた検討、実施	年間を通じて
	各種会議を通じたケース検討と支援策の開発	年間を通じて

(2) 包括的な支援体制づくりに向けた行政との協働

複合・複雑化したニーズに対応するため、官民の協働と連携による「相談支援」「参加支援」「地域づくり支援」の3つの支援を行う包括的な支援体制の構築が求められています。淡路市との連携・協働により、誰もが安心して暮らすことができる淡路市、また地域共生社会の実現に向けて取り組んでいきます。

事業項目	事業内容	頻度(時期等)
包括的な支援体制 づくりに向けた 行政との協働	分野にとらわれない横断的な話し合いの場づくり	年間を通じて
	官民協働による「一旦受け止める」窓口づくり	年間を通じて
	学習会や研修を通じた行政との課題共有	年間を通じて
	家電製品や制服等の貸与についての仕組みづくり	年間を通じて
	官民協働による新たな資源開発	年間を通じて

(3) 地域での暮らしを支える福祉事業所の展開と運営

既存の制度やサービス提供のみを行ったり、一人ひとりを支えられる対象として捉えるのではなく、本人を中心に据え、誰もが「助けられたり助けたり」する関係づくりを地域ですすめていくための事業所運営に取り組んでいきます。

事業所名	事業種別
介護支援 てのひら ゆうゆうライフケアプランセンター	居宅介護支援
もみじの里デイサービスセンター ゆうゆうライフデイサービスセンター	通所介護
いちのみや訪問看護ステーション	訪問看護
福祉用具レンタル事業所	福祉用具貸与
竹の子作業所 あいあい作業所 ひまわり作業所 地域生活多機能拠点 いづかしの杜	就労継続支援B型
障がい者地域生活拠点 ぼれぼれ	就労継続支援B型・生活介護
さぬきうどん幸来	就労継続支援B型・就労移行支援
障がい者サポートセンター ハピくるステーション	相談支援
ケアホーム いちごの家 ケアホーム ハピくるの家	共同生活援助

事業項目	事業内容	頻度(時期等)
地域での暮らしを支える福祉事業所の展開と運営	地域に開かれた事業所運営(運営推進会議等の開催)	年間を通じて
	本人の力を生かした活動開発の検討	年間を通じて
	地域協働による事業・商品開発	年間を通じて
	地域生活課題に対する活動事業開発(食・移動・居場所等)	年間を通じて
	誰もが「参加」「役割」「活躍」を持った活動・事業の推進	年間を通じて
	障害者虐待防止センターの運営(障がい者虐待の一次窓口)	年間を通じて
	地域ケア会議、地域課題拡大ネットワーク会議への参画	毎月

(4) 生活福祉課題に向けた委託事業の推進

地域で暮らしていくためには、福祉資源も活用しながら、本人がこれまで培ってきた力が発揮できる支援が必要です。その人を受け止め、地域生活の支えとなるような活動をすすめます。

事業項目	事業内容
生活福祉課題に向けた委託事業の推進	「食」の自立支援事業の実施
	外出支援事業の実施
	軽度生活援助事業の実施
	介護用品支給事業の実施
	高齢者等住宅安心確保事業(LSA)の実施
	北淡総合福祉センター・一宮高齢者生活福祉センター・久留麻老人福祉センターの指定管理

《津名圏域》

・「地域支えあいセンターつな」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

地域の人が福祉について学ぶ機会や、サロン・カフェの活動者同士の情報交換、子どもを通して子育て世代の人も地域活動に参加する機会をつくる等、さまざまな世代のつながりづくりや活躍支援を行います。

令和5年度の重点的取り組み(地域支えあいセンターつな)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
福祉カフェ「気づき」の開催	地域福祉の活動や課題を知り、関心のある人の出会いや新たな活動や組織化へのきっかけを作るために、地域の人が気軽に立ち寄れる学び場を開催します。	1・3・6
サロン、カフェ等世話人の情報共有会	お互いに他のサロンやカフェはどのようなことをしているか気になるという声が多いことや、世話人達と一緒に集まる機会が今までなく、それぞれが工夫して行っていること等お互いの良いところを共有する機会を作ります。	2・6・8
さまざまな世代のつながりづくりや活躍支援	地域には、さまざまな特技を持った人がおり、その特技を生かした活躍の場づくりと共に、昔ながらの遊びや農作業、釣り等を通して子どもたちと世代を超えた交流の場を作ります。	1・4・5

・「竹の子作業所」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

コロナの影響で、外での販売機会が減ったので、販売場所の拡大やミニまつりを開催することで、地域の皆さんとのつながりづくりをすすめていきます。

令和5年度の重点的取り組み(竹の子)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
販売場所の拡大	サロンやカフェ、地域のお店などに製品を置かせていただくなど、販売場所を拡大し、売り上げアップを目指します。また、地域の皆さんと話をしたり、交流できる場にも出ていき、販売する機会を増やすことで、お互い知り合うきっかけづくりをすすめます。	5・6
竹の子ミニまつりの開催	地域の皆さんに作業所や利用されている方が一生懸命働いていることを知ってもらうために、夏休みなども利用して、マット編み、クッキーづくり体験、ミニイベント(綿菓子、ポップコーン、かき氷等)を開催します。	3・5

・「さぬきうどん幸来」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

利用者の方が普段がんばっている様子を、屋外でのうどんの販売時や SNS での発信を通じ、地域の皆さんに知ってもらう機会を作ります。

令和 5 年度の重点的取り組み(さぬきうどん幸来)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
福祉まつりへの参加	利用者の方と接して幸来のことを知ってもらうために、福祉まつりへ参加して、出来たてのうどんを販売します。(まずは津名地域から)	2・3・5
はたらく「手」	「はたらく」内容や生産量は違っても、誰かのために何かのために自分のために動かしている手は輝いています。利用者の「手」をテーマに、写真などを広報やホームページ、SNSで発信します。	3・4・6

・「ケアホーム いちごの家」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

外出や余暇活動への参加などを通して、利用者が主体的に企画し、参加できる支援を行います。

令和 5 年度の重点的取り組み(いちごの家)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
あわ神あわ姫バスで外出	普段外出する機会が少ないため、リフレッシュを兼ねて休日にあわ神あわ姫バスに乗り、グループでお店やイベントなどに1日かけて参加します。	3・4・5
野菜作り	プランターで野菜を育てて収穫し、自分たちで栽培した野菜を食べる喜びを感じられるための支援を行います。	3・4・5

《岩屋圏域》

・「地域支えあいセンターいわや」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

今ある地域の活動者や有志住民からなる社協いわやの運営委員会、地域生活拠点つながりの運営に携わるボランティア代表者会を中心に、役割と参加を意識した取り組みと協議を重ねていきます。それ以外にも「協議」することを大切に、大小さまざまな協議の場にアンテナをたて、積極的に顔を出せるようにします。

少人数のセンターですが『誰しもの役割と参加を大切にする』意識を職員それぞれがしっかりと自分の中心に据えて、住民や関係機関との連携をすすめます。

令和5年度の重点的取り組み(地域支えあいセンターいわや)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
気軽に寄れる 相談窓口	窓口には生活困窮やよろず相談が後を絶たちません。まずは窓口で職員それぞれが親身な姿勢で受け止めることを心がけ、本人と一緒に日々のちよつとした憤りや辛さ、複雑で多様な生きづらさと向きあいます。じっくりと会話を交わすことで得心して帰られる方も多くあるので、これからも気軽に寄れる相談窓口となるように努めます。	5・6・7
活躍・参加を 探します	参加と活躍が人を元気にします。貸付、米の支給、生活用品の貸出だけでなく、実際に地域で様々な働き方や活躍の仕方がないか？ということを常に念頭に置いて、地域で商いをされている方や、個人・グループの活動者にいろんな場面で発信し、アンテナを立てて学習を続け、地域の力でできる活躍支援、参加支援を探していきます。	4・8
活躍・参加を すすめます	だんじり祭りや盆踊りなどの地域の習慣が、長きにわたるコロナ禍で途絶えており、力合わせの機会も失われています。それでも福祉まつりや地引き綱等、『楽しい』ことのでつながりを取り戻すように今年も働きかけていきます。 一方地域で有志による盆踊り復活にむけた兆しがあることは見逃せません。我々もその実行委員会などに積極的に参画し、活躍と参加の機会を広げるお手伝いをしていきます。	1・2・5
朝市	～地域生活拠点つながり～ 「朝市」の中心的存在であった生産農家の方が農産物の提供から引退されます。今年度は事務局と代表者会で協議を重ね、新たな提供元を探しながら、地域からなるべく多くの賛同者を得て、参加してもらえる運営スタイルを模索していきます。	1・2・3

《北淡圏域》

・「地域支えあいセンターほくだん」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

コロナ禍で様々な制限がある状況が続き、コロナ前の活動へ近づけるような声が出はじめても、感染拡大のニュースが声をかき消してしまう事もありました。ただ、感染予防の基本を励行することで、できる活動が多いことも事業を運営する上で分かってきました。そのような情報を発信しながら、さらに一步前に活動をすすめられるよう、地区社協をはじめ地域の皆さんのお手伝いをしたいと考えています。

センターのさらなる拠点化のため、各事業の活動が混じり合い、かつ気軽に立ち寄れる場所となる様に、地域の方の話を聞きながらすすめていくとともに、移住してこられた方や子育て中のお母さんが孤立しないような出会いの機会を作っていきます。

令和5年度の重点的取り組み(地域支えあいセンターほくだん)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
センターの地域拠点化	事業で来所する高齢者や障がいのある人だけでなく、地域住民が気軽にセンターに立ち寄れるような拠点化が進みつつあります。いきいき100歳体操を事業利用者と一緒にしたり、高齢者がつくる野菜や手芸品を販売したり、地域の方が気軽に来られるような取り組みにより、以前よりも多くの方が立ち寄っていただけようになってきました。各事業の取り組みも含めて、多様な展開をしていきます。	1・3・6
定期的な学習・気づきの場づくり	地域住民と一緒にさまざまな課題を語り合う機会を引き続き開催します。また、関係機関を交えて介護などの学習の機会を展開していきます。	6・7・8
地区社協の活動を推進	コロナ禍での活動制限が緩和されることから、地区社協をはじめとする地域活動について、活動を推進する方の後押しができるような提案を行います。	1・5・8
「ふくふく市」の発展・充実	昨年度は、センターの玄関先に地域の人が持ち寄ったものを販売できるスペース「ふくふく市」を設ける事ができました。令和5年度は、販売を見に来てくれた方に向けて、くつろげる交流スペースを作り、つながりづくりの場として発展させていきます。	1・5・8
「青空ミーティング」の開催	子育てをしている方の中には、島外から引っ越して来られた方も多くいます。センターの座敷スペースを活用し、子どもを連れて気軽に立ち寄れる場所を作ることで孤立を防ぎます。同じ子育て中の方だけではなく、過去に子育てを経験したデイサービスの利用者や、生活介護のメンバーとも一緒に過ごすことができる場所にしていきます。	3・6・7

・「介護支援てのひら」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

地域で活動する中で、住民より介護保険制度や福祉サービスについての説明を希望する声を多くいただきました。関心のある方に向けて、気軽に学べる機会をつくり、不安を軽減してもらおう事で、地域で安心して住み続けられるようにしていきます。

令和5年度の重点的取り組み(介護支援でのひら)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
「介護の学びのひろば」の開催	住民の人が抱えている介護の悩みなどを、わかりやすく学べる機会を設ける事で、不安を軽減しながら今の生活を続けられるようにします。継続的に教室を開き、関係機関とも連携してすすめていきます。	3・6

・「もみじの里デイサービスセンター」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

利用されている方が持っている知識や経験を活かして、いろいろな活躍ができるように、気軽に得意なこと・やりたい事を実現できるような仕組みを作ります。

令和5年度の重点的取り組み(もみじの里デイサービスセンター)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
昔ながらの〇〇さん一品レシピ	利用者が季節の食材を採りに行ったりして、昔作っていた得意な料理を作って、他の利用者や地域の人に振舞ったり、夕食の一品に加えられるように持ち帰ってもらえるようにします。また、利用者が作る事で交流を深め、活躍の場にもしていきます。	1・2・5
自由に過ごせる居場所づくり	利用者がやりたいことをいつでも自分で選択できるように、自由に手に取れる場所にレクリエーションの材料を置きます。また、職員も利用者との会話の中で、どんなことに興味があるのかを敏感に読み解き、対応します。	1・2・5

・「地域生活拠点ぼれぼれ(就労継続B)」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

ぼれぼれの活動に、より多くの人に参加できることを目指した仕組みづくりをすすめていきます。また、できたての商品を提供する機会をつくり、さらなる交流をすすめていきます。

令和5年度の重点的取り組み(ぼれぼれ就労継続B)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
一緒に作業しませんか！	ひきこもりがちの方などを対象に、利用者と一緒に活動できるようにします。活動を理解してもらえる機会になることはもちろん、利用者との関わりを通じて、社会参加のきっかけになることが期待できます。	2・3・5
定期的な屋台販売	放課後子ども教室のお迎えの時間やいきいき100歳体操に来た方など、人が集まる時間帯にぼれぼれの商品をメンバーと販売します。手始めにコロッケを販売し、昔のように揚げたてを買って食べることを懐かしんだりできるようにします。	3・5・6

・「地域生活拠点ぼれぼれ(生活介護)」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

デイサービス利用者や事業所に来られる方との交流を通じて、それぞれの役割を意識し、活躍できるようにしていきます。

令和5年度の重点的取り組み(ぼれぼれ生活介護)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
地域の方との交流	昨年度より、センター内でいきいき100歳体操を行っており、住民の方と出会う機会が増えています。来所された方に向けて、利用者が主体となっておもてなしの用意をすることで、交流や活躍の場をつくります。	1・3・5
さらなる活躍の場にします	共生型のレクリエーションの素材を、地域に出て調達する役割をメンバー全員で担います。	1・3・4

・「地域生活多機能拠点 いづかしの杜」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

いづかしの杜の拠点である仁井地区を中心に地域住民とのつながりを大切にしていきます。地域の方が困っているときや手助けしてほしいとき、いづかしの杜が困っているときや手助けしてほしいときに、互いにSOSを出せる関係を築いていくために、お互いを知ってもらい、力合わせする機会ときっかけづくりとして、今年度も住民参加と交流の機会を企画していきます。そのなかで参加交流する世代の幅を広げる企画も考えています。

令和5年度の重点的取り組み(いづかしの杜)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
いづかし フリーマーケット	～なんでも屋～ 買い物以外でも立ち寄ってもらう機会を増やすため、フリーマーケットスペースを設けて、地域の方に持ち寄ってもらったりサイクル品をならべます。	3・5・8
子どもの弁当屋さん	～弁当屋～ 利用者とスタッフでおにぎりや弁当のおかずを作り、バイク形式で、地域の子どもたちがそれぞれに持ちよった弁当箱に自分たちで詰めて、その場で食べたり持ち帰ってもらいます。何度か慣れてきたら地域の子どもや親御さんたちと一緒におかずを作ることも考えています。 きっかけは、子育てしているときにあれば助かったと思ったことで、食育やひとり親家庭の支援にもつながると考えています。	5・7・8
いづかし ガーデニング部	地域の有志を募って、利用者と一緒に種まき、花植えをして、いづかしの杜周辺を花いっぱいにします。 維持・管理を地域の方と利用者で分担して行い、開花の時期に合わせ、鑑賞会と称したお茶飲み会を実施します。	1・3・5
農繁期が おちついたら、 一回寄ってっ〜!!	いつもお世話になっている生産農家の方に呼びかけ、夏の田植えや秋の穫り入れが終わったら『みんなでご飯を食べよ〜!!』とお誘いします。仁井の子どもたちにも寄ってもらい、夏には恒例行事の「流しそうめん」ができなくなったので、「わんこそうめん」と「かき氷」で楽しみ、秋には大きな鍋で数種類のカレーを焚いて、新米ごはんを楽しみます。	2・3・5

《一宮圏域》

・「地域支えあいセンターいちのみや」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

コロナ禍での生活や活動が新しいステージになっていきます。活動を通じたつながり直し、そして新しいつながりからつながりの輪が広がるよう、一宮地域の皆さんと力合わせをしていきたいと考えています。

令和5年度の重点的取り組み(地域支えあいセンターいちのみや)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
チャレンジから生まれる多様な活動	令和5年1月から「なんでもチャレンジ」を始めました。始まって間もないですが、そこから広がる大きな可能性を感じます。ゆうゆうライフの「よらんか学園」とも協働しながら、参加者を中心に新しい活動が生まれるように関わっていきます。	3・4・8
まちなか食堂「お互いさま運動」	一宮地域で食堂や商店が閉店し寂しくなったという声をよく耳にします。長年サロンや多方面で「食」に関する活動を続けてきたボランティアの皆さんと気軽に食で立ち寄ることができる居場所づくりに向けた協議を始めます。	1・2・7
新しい福祉学習の推進	一宮管内2校の小学校と同じく中学校での福祉学習の機会の提案の継続。住民の普段の生活の困りごとを、当事者や福祉の視点から考える機会づくりをすすめていきます。	6・8

・「ゆうゆうライフケアプランセンター」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

本人や家族の「介護保険制度」や「認知症」などについての不安や悩みを、少しでも地域ぐるみで解消できるような場づくりをすすめていきます。

令和5年度の重点的取り組み(ゆうゆうライフケアプランセンター)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
出前講座	地域福祉活動専門員、生活支援コーディネーターとも協働しながら、介護保険制度や認知症、フレイルなどの講座を地域のサロン等で話す機会を持ちます。	1・7
介護を中心とした地域のつどいの場	一宮地域には「思い」が「形」となり誰もが気軽に立ち寄れる場所「つどい場あじさい」があります。個の支援にとどまらず、生きづらさを抱えた当事者たちの思いが共有できるような場が創出できるように協議していきます。	3・8

・「ゆうゆうライフデイサービスセンター」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

感染対策に重きを置きながら、デイサービスで活動を生み出す難しさを痛感してきた3年間でした。制度の枠にとらわれない集まりの場「よらんか学園」を続けてきたこと等、新しいコロナのステージでゆうゆうライフを拠点とした地域とのつながりづくりをすすめます。

令和5年度の重点的取り組み(ゆうゆうライフデイサービスセンター)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
子どもデイサービスの開催	屋外スペースの活用など、新しい形での「子どもデイサービス」開催に向け、デイサービスの運営推進会議を中心に協議を行い、すすめていきます。	2・7
地域との協働つながりへ	昨年度から始まった、企業と協働したアイスクリームづくりをはじめ、ゆうゆうライフで収穫できた野菜など、よらんか学園での販売を通じた地域とのつながりづくりを行います。	4・5

・「いちのみや訪問看護ステーション」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

これまでの訪問看護の経験をもとに、本人や家族の不安や悩みに焦点を当て、本人らしい在宅での生活を支援します。

令和5年度の重点的取り組み(いちのみや訪問看護ステーション)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
家族の相談窓口(子や嫁世代)	訪問看護を通じて「気軽に相談できる」を合言葉に、本人や家族、近隣の方などのお互いさまの関係づくりをすすめます。	7・8
本人らしい楽しみのために	これまでは訪問先などで「もう元気じゃないからあきらめるわ」という言葉をよく耳にしてきました。たとえ療養中などであっても、本人の趣味や楽しみの実現のために一緒に計画、同行するなど、その人らしさを支援します。	5・8

・「あいあい作業所」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

郡家地区を中心とした地域交流の場づくりの再開と、地域住民との相互理解の場づくりをすすめます。

令和5年度の重点的取り組み(あいあい)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
あいあいサロン	コロナ禍以前は夏ごろに開催していた「あいあいサロン」を再開することで、あいあい作業所を拠点とした地域交流の場づくりを行っていきます。	1・2・8
学校交流学びの場づくり	管内の小学校との交流や地域の子もたちとの出会いを通じ、ともに作業を行うことで学びあい、新しい自主製品の共同開発を視野に入れた取り組みをすすめます。	4・7

《東浦圏域》

・「地域支えあいセンターひがしうら」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

東浦地域では、住宅の宅地造成や企業進出が急速に進んでおり、地域の様子や生活課題も急速に変化しています。これまで大切にしてきた活動の意義を今一度見つめ直すとともに、今の情勢にあった活動にも目を向けていかなければなりません。改めて、まずは出会い、知り合い、認め合い、そして力を合わせて活動をすすめていきたいと考えています。

令和5年度の重点的取り組み(地域支えあいセンターひがしうら)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
「はなしあい」を改めて丁寧にした地域福祉活動	職員それぞれが業務の中で聞くこと・感じること・考えることが多々あります。まずは、職員間で意識して話し合う機会をつくり、共通の認識を持った上で、地域の声を聞き、話し合いながら、改めて「誰もが安心して暮らせるまちづくり」をすすめます。 (センター内職員会議、意見交換箱、あんしんネットワーク会議など)	2・4・6
久留麻老人福祉センターのさらなる活用	久留麻老人福祉センターを会場に、貸館利用者やグループの作品展示会やロビーでのサロンを開催し、引き続き出会いの場・居場所・活躍の場づくりをすすめます。	1・3・5
一緒につくる「お昼ごはんの日」と「地域劇」と「花壇」	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でごはんを食べる人も多いため、作業所やいずみ会とも協働して、老人福祉センターを会場に、昼ごはんの日(仮称)を開催します。 ・住民や事業者と協力し、地域課題や世情を題材とした地域劇を計画し、興味関心を持つこと、地域のことを考えることのきっかけづくりを行います。 ・有志で「花」について話し合い、花壇に花を植え、育てながら、その過程で生まれる楽しみや人の輪を広げていきます。 	5・7・8

・「ひまわり作業所」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

ひまわり作業所では、クッキーや玉ねぎドレッシングの製造販売、わいわいサンリッチ(喫茶)、クロネコメール便配など様々な地域に出て行く仕事をしています。引き続き、東浦地域の小中学校との交流を重ねながら、地域とつながり、地域の居場所となるような活動をすすめていきます。

令和5年度の重点的取り組み(ひまわり)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
ひまわり わいわいまつり	地域の中で気軽に安心して立ち寄れる場所となる第1歩として、「ひまわりわいわいまつり」の開催を計画します。 地域のたくさんの方に利用者の事や場所を知ってもらうために、知り合う関係づくり、顔の見える関係づくりをすすめます。 楽しいゲームやフリーマーケットなど、地域の方にも協力を依頼しながら、わいわいと楽しく過ごせる活動をすすめます。	5・7・8
定期的な オープン作業所	オープンデーを設けて、屋外でオープンカフェ、同時にその時にしか買えないクッキーを販売します。 来て頂いた方に作業の見学などもしてもらい、日頃から気軽に安心して立ち寄れる場所としての交流を行う活動をすすめます。	3・4・5

・「ケアホーム ハピくるの家」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

ハピくるの家がオープンして12年が過ぎました。街の中にある立地を生かして、町内会や近所の人たちとの関係づくりに今一度注目し、共に生きていく基盤づくりをすすめていきます。

令和5年度の重点的取り組み(ハピくるの家)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
花の水やりから 生まれる出会い	ハピくるの家の庭や花壇に花苗を植えて、利用者と一緒に水やりを行います。家の前を通る人々とあいさつや気軽に声をかけあう機会をつくることで、ハピくるの家や利用者のことをさらに知ってもらえるきっかけづくりをすすめます。	3・4・5
一斉清掃など町内 会行事への参加	町内会行事に積極的に参加し、出会い・知る機会を広げていきます。特に、毎年6月の町内会一斉清掃は、これまで職員のみ参加だったので、一緒に参加できるようにしていきます。	3・4・7

《本部》

・「淡路市社会福祉協議会本部」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

令和5年度の重点的取り組み(本部)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
ほっとかへんネットワークの配置	社協における生活困窮者支援体制強化事業(ほっとかへんネットワーク配置事業)を通じ、特例貸付世帯への対応(相談支援・情報提供)や、生活困窮にまつわる様々な課題に対応できる体制を整えるとともに、属性にこだわらない全世代型の役割や活躍の意識が高まる取組みをすすめていきます。	4・5・8
淡路市子育て支援事業への協力	市内で生まれる新生児やその家族が、子育て支援の機関とつながることを支援する市の事業に、おむつを支給するという形で協力します。	3・6・7
広報活動の充実	社協を知ってもらうための情報や、地域の活動をホームページなどで積極的に発信します。また、社協からの発信だけでなく、地域の人にも参加してもらえるようにすすめていきます。	3・4・6
職員ニュース発刊	福利厚生など、職員向けに身近なお知らせや出来事などの情報を全職員に伝えられるように、広報にして発行します。	3・6

・「福祉用具レンタル事業所」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

本人や家族が感じている介護の不安・負担を軽減し、安心した在宅生活を送れるように、福祉用具の利便性を知ってもらえるような情報を積極的に発信していきます。

令和5年度の重点的取り組み(福祉用具レンタル事業所)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
福祉用具の認知拡大	社協の持つ情報発信ツールを使って、本人の状態に合った福祉用具や利用方法を紹介していきます。また気軽に相談できるようにしていきます。	6・7・8

・「障がい者サポートセンター ハピくるステーション」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

相談支援専門員同士で話し合うことや、研修の機会をもつことで、よりよい相談支援業務につなげます。また、相談支援を利用されている方やご家族、サポーター同士がつながり合える場づくりを共に作っていきます。

令和5年度の重点的取り組み(ハピくるステーション)

タイトル	内容	つながる目指したいこと(第1章)
相談支援専門員同士の情報共有や研修の機会の確保	一人でケースを抱え込まないよう、定期的にケース検討や業務の困りごとを出し合うなど話し合いの場をもちます。研修の機会を増やすため、自立支援協議会の相談支援部会(島内全域)への参加をすすめます。	6・7・8
当事者や家族同士がつながり合える場づくり	当事者や家族が悩みを抱え込まず、仲間や支援者ともつながり合えるように、卓球バレーなどの簡単なスポーツ等で楽しめる機会を提供します。	1・3・7